

第 3 章 立地適正化に関する基本的な方針

第3章 立地適正化に関する基本的な方針

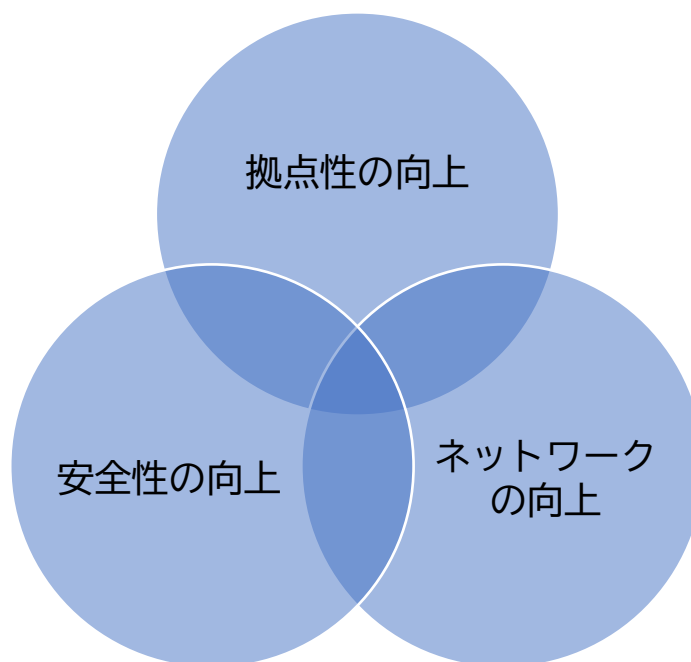
1 目指す方向性とまちづくりの方針（ターゲット）

「持続可能なまちづくり」を実現させていくためには、これまで積み重ねてきたまちづくりを継承するだけでなく、次世代へ繋ぐまちづくりに取り組むとともに、より長期的な視点に立って「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを推進していくことが必要です。

本計画では、都市計画マスタープランのまちの将来像に掲げる「南の島の自然と風土を活かし、人と人とのふれあいを大切に、住みよさと快適さを追及するすこやかまちづくり」の実現に向け、住民・民間事業者・行政等の積極的な連携により、より良い未来に向け、活力と魅力あるまちづくりを目指して、「拠点性と安全性の向上を目指した持続可能なまちづくり」を掲げ、未来のまちづくりの方針とします。

【まちづくりの方針（ターゲット）】

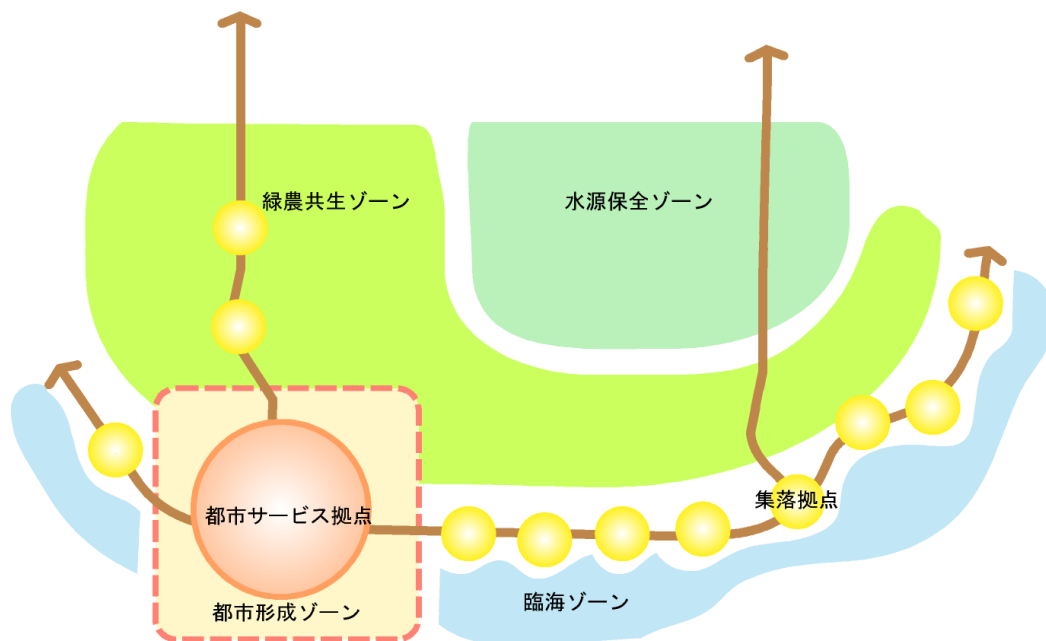
拠点性と安全性の向上を目指した持続可能なまちづくり



2 目指すべき都市の骨格構造

徳之島町は徳之島全体の都市機能の中心である亀津・亀徳地区の市街地、幹線道路沿いに連なる集落、そして島の内側へ向かって広がる豊かな農地や山林から構成されており、この亀津・亀徳地区が都市計画区域となっています。

徳之島町の将来像としては、この市街地の都市機能を強化育成するとともに、周辺の集落と市街地を交通の軸となる道路で緊密に結ぶことにより、町全体で便利に快適な生活ができるようなまちづくりを目指します。また、島の豊かな環境を大切にし、美しい海辺や農地と共存する緑地、大切な水を蓄える樹林地等の保全を図ります。



■主要なゾーンの設定

○都市形成ゾーン

亀津・亀徳地区の市街地の魅力・活力を高め、町の中心となる都市を形成するゾーン。

○緑農共生ゾーン

南の島固有の植生をもつ緑豊かな環境と町の主産業である農業が共生するゾーン。

○水源保全ゾーン

生活に必要な貴重な水をたくわえ、豊かな自然環境とともに保全するゾーン。

○臨海ゾーン

珊瑚礁に囲まれた南の島の美しい海の景観と環境を保全し、海辺に親しむゾーン。

■拠点の形成

○都市サービス拠点

市街地ゾーンにあって、便利な都市サービスと魅力的な出会いを提供する拠点。

○集落拠点

親密なコミュニティが育まれたふるさとの香りを大切にした集落拠点。

■軸の形成

○連携軸

ゾーンや拠点を結んで相互に緊密な連携を図るための軸。

都市づくりの目標を実現するため、都市計画マスタープランにおける将来都市構造の拠点配置及び都市軸の位置付けを基に、良好な居住環境を確保するための「居住を誘導する区域（居住誘導区域）」と便利で快適な都市機能の集積を図るための「都市機能を誘導する区域（都市機能誘導区域）」の中心となる拠点の形成を図り、都市機能や居住の場が農地や樹林地を侵食することなくコンパクトにまとまったまちづくりを目指します。

また、拠点間や拠点と居住地とをネットワークで結ぶことにより、移動利便性を確保するための骨格構造を位置付けます。



3 課題解決のための施策・誘導方針（ストーリー）

「まちづくりの方針」及び「都市の骨格構造」を実現するため、課題解決に向けた居住及び都市機能に関する誘導方針を以下のように定めます。

島の交流拠点と生活拠点として特性に応じた魅力の向上

人口減少・少子高齢化が進展する中で、これまで経済活動や交流の拠点整備により発展してきた経験を生かし、時流に応じた都市機能の集約化による利便性の向上と若者による活気のあるまちづくりを進めることで、地域交流拠点や生活拠点の特性に応じた魅力の向上を図ります。

長寿子宝のまちに相応しい、誰もが暮らしやすく、災害に強い暮らしの実現

人口減少・少子高齢化が進展する中で、長寿子宝のまちとして、子育て世代・高齢者などに配慮し、暮らしやすい生活サービス水準の維持が必要です。また、区域全体における防災対策を進めながら、住民が安心して住み続けることができるまちづくりを目指します。

広域連携交流や地域間連携ネットワークの充実と生活サービスの向上

幹線道路などの交通ネットワークを基軸としたまちづくりが課題となっています。さらに、コンパクト化の効果をまち全域で享受するため、交通弱者の生活支援や地域間交流・ネットワークなど、多様な交通・生活サービスの形成を目指します。

